

まいばら市政ウォッチ

まいばら親子の絆プロジェクト 東日本大震災と親子の絆を考える写真展

3月1日から23日を会期に市議会定例会が開催され
新年度の施政方針を市長が示すとともに、
予算が審議されました。

施政方針の概要と主要事業をみなさんにお伝えします。

「こども条例」の制定 地域の特色を活かしたまちづくり支援 まいばら協働事業提案制度 ビワマス遡上プロジェクト 地域密着型体育館の整備 子育て支援センターの充実 環境放射線の測定 自主防災組織の活性化 地域防災計画見直し 防災・減災に対応するきめ細かなまちづくり 道路橋りょう長寿命化修繕計画の策定 絆バトンの配布 絆で結ぶ災害ボランティア体制の構築 太陽光発電・薪ストーブ設置への補助

絆事業

防災事業

キーワードは「絆」と「防災」

これまで市では、「絆で築く元気な米原市づくり」を重点目標に掲げ、とりわけ「絆」にこだわった市政運営を進めてきました。

平成24年度は、「親子の絆」事業はもちろん、「地域の絆」を育む事業をさらに充実し、4万人規模の小さな米原市だからこそできる顔の見えるまちづくりを展開していきます。

また、市民のみなさんの尊い命やかけがえのない財産を災害から守るため、防災・危機管理に重点を置いたまちづくりを進めていきます。

そして、平成24年度から平成28年度を計画期間として、総合計画後期基本計画がスタートします。この計画に盛り込まれた施策を効果的に推進していくためにも、「協働の推進」・「情報の共有」・「行財政改革の推進」・「職員の意識改革」を念頭に置いて、市民のみなさんの視点に立った行政運営を進めていきます。



▲総合計画審議会会長の今川晃さん（同志社大学教授）から、市長へ後期基本計画の答申書が手渡されました。3月9日米原庁舎にて。

最重要課題への取り組み

米原南工業団地や米原駅周辺のまちづくりについては、現在の厳しい経済情勢を考えると樂觀的な期待を持てる状況にはありませんが、いずれの事業も米原市の経済基盤を確立するための最重要課題として、早期実現できるよう全力で取り組んでいきます。

施政方針と当初予算の概要、総合計画後期基本計画については、市公式ウェブサイトで市政情報プラザでご覧いただけます。

3年目を迎える「親子の絆プロジェクト」
これまでの事業の成果を検証しつつ
「地域の絆」を育む事業もさらに充実

絆事業

拡充
まいばら親子の絆プロジェクト

「親子の絆フォーラム」の開催や「親子の絆宣言」を行うなど、親子の絆を見つめ・育む機会を総合的に推進。

100万円

新規
仮称「こども条例」の制定

子育て・子育てにやさしいまちづくり、地域ぐるみでの次世代育成の取り組みを推進するため、「(仮称)こども条例」を制定。

42万円



▲地域創造支援事業を活用して上丹生で取り組まれた「ふるさと絵屏風」づくり。制作過程を通じて地域の絆が深まりました。

新規
東日本大震災と親子の絆を考える写真展

「米原駅Oyakoギャラリー」展示の第2弾として、写真家ブルース・オズボーン氏の写真展を開催。被災地支援の輪を広げ、災害を再認識する機会に。 215万円

拡充
ピワマス遡上プロジェクト

小学校でのピワマスふ化実験やピワマスシンポジウムの開催、手づくりの魚道設置など、ピワマスや地域の環境への親しみを深める事業を展開。 180万円

拡充
地域の特色を活かしたまちづくり支援

各地域の特色を活かして取り組まれている地域創造支援事業に、次代に引き継ぐべき地域の祭や行事の保存・伝承を支援するメニューを追加。 960万円

新規
地域密着型体育館の整備

老朽化が進んでいる双葉体育館と近江体育館を統合して、身近に利用できる地域密着型の体育館を整備。スポーツを通じた絆の育みの拠点に。 6億3,745万円

新規
まいばら協働事業提案制度

協働による持続可能なまちづくりに向けて、地域課題や行政課題に対して、市民のみなさんと市がともに汗を流す協働事業の提案を募集。 117万円

拡充
子育て支援センターの充実

市内3か所で運営している子育て支援センターのほか、はにわ館を利用して新たに近江地域に開設。5月に開設予定。 1,724万円

- ▼心の健康づくり 34万円
- ▼放課後安心プランの推進 6,052万円
- ▼特定不妊治療の応援 175万円
- ▼発達支援センター機能の仕組みづくり 277万円
- ▼地域福祉計画の策定 321万円

安心
市民の絆で築く心と体の健康なまち

- ▼(仮称)おつみ認定こども園の整備 2547万円
- ▼人権推進・男女共同参画社会づくり 394万円
- ▼本はともだち「おはなし隊」派遣 342万円

いきがい
誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち

総合計画 政策の5本柱と平成24年度の主な取り組み



総合計画に掲げた政策の5本柱に基づいて、次の事業を展開していきます。(一部抜粋)

新規

環境放射線の測定

市内4か所で環境放射線を測定し、日常における環境放射線の状況についてウェブサイトを通じて情報提供予定。

60万円

拡充

防災・減災に対応するきめ細かなまちづくり

緊急車両の通行確保や危険箇所などの改善のため、市道拡幅や補修、河川改修やしゅんせつなど、きめ細かに対応。

5,630万円

拡充

自主防災組織の活性化

地域の団体が取り組む防災かまどベンチの設置・活用を支援する(60万円)ほか、防災研修会(28万円)や市民参加型総合防災訓練(35万円)を開催。

123万円

新規

道路橋りょう長寿命化修繕計画の策定

道路橋の長寿命化や計画的な架け替えのために有識者などを交えて計画を策定し、災害に強いまちづくりを推進。

548万円

地域防災計画の見直し

防災会議や専門機関、地域の意見を取り入れながら、原子力災害対策を盛り込んだ地域防災計画・関連マニュアルを策定。

3,224万円

拡充

絆バトンの配布

緊急時に的確で迅速な初期対応が図れるよう、高齢者に配布している「絆バトン」を新たに外国籍市民にも拡大。

26万円



▲実践を重視した世継区の防災訓練。ライフラインが寸断されたことを想定して、ドラム缶をくりぬいたかまどを使った炊き出し訓練に取り組みました。

拡充

絆で結ぶ災害ボランティア体制の構築

災害時の緊急体制を地域で構築するため、社会福祉協議会の組織強化を図り、自治会と連携しながら福祉・災害ボランティアを育成。

1,163万円

新規

太陽光発電・薪ストーブ設置への補助

地球温暖化防止やエコライフを推進するとともに、停電時や災害時に有効な発電機能等を確保できるよう、市民が整備する太陽光発電設備や薪ストーブの設置に対して支援。

100万円

防災事業

多角的に防災事業を展開

自主防災組織の機能強化を行うなど

市民・地域の絆で災害に強いまちづくりを推進

快適

田舎都市が魅せる
いやしのまち

▼一般廃棄物最終処分場の整備

1710万円

▼景観行政の推進

366万円

▼文化的景観保護の推進

2500万円

▼環境美化条例の普及啓発

481万円

安全

災害に強く生活が
便利なほっとするまち

▼除雪・消雪事業

1億1950万円

▼急傾斜地崩壊防止対策

56000万円

▼高齢者等の住宅除雪の支援

95万円

活力

地の利を活かした
にぎわいのまち

▼起業支援・米原ブランド創造支援

2000万円

▼こたわり農業参入支援・青年就業支援

2022万円

▼水源の里振興

4722万円

▼米原駅前広場整備事業

1000万円

▼有害鳥獣対策

4056万円